

経済情勢

概

観

1. 欧米諸国景気を行過ぎ是正に踏み切る

先行き見通し難からひとところ気迷い気配を示していた欧米諸国の金融政策は依然たる世界景気の堅調に対し漸く本格的な調整策に踏み切りつつあるようである。すなわち数か月前過度の警戒として問題となつた西ドイツおよび米国の公定歩合引上げも現在では当然の措置として是認され、西ドイツでは引続く輸出インフレに対処して更に支払準備率の引上げ、消費者信用の統制等が考慮され、米国でも鉄鋼建値の引上げ等を契機として増大する資金需要抑制のため貸出金利の再引上げが取沙汰されるに至つている。また従来比較的楽観的観測の下に積極政策を続けてきたフランスもアルジェリア問題の重圧が加わつてインフレの濃化はいなみ難く、遂に物価の凍結、賦払信用の抑制、銀行の国庫証券保有限度引上げ等、一連の措置実施を余儀なくされた。更に従来から引締政策を採つてきた英国は西ドイツとの輸出競争上の劣勢挽回のためにも一層の引締めが不可避となり、スエズ問題の難局にも備え、インフレの抑制は正に“New Battle of Britain”（イーデン）となつた。更に米国と競争で公定歩合の引上げを行つてきた観のあつたカナダは8月10日これを3%から3.25%に引上げ投資の行過ぎ是正の決意を示した。

2. 銀行貸出の増勢依然旺盛

翻つて国内の景況をみるに、生産は依然逐月戦後最高を更新するという著しい上昇を示しているが、ひと頃減少傾向にあつた生産者在庫も5月以降漸増を続けている。これは需給関係が若干緩和されてきたことを物語るものにほかならず、それは物価面にも反映され7月の卸売物価は前月に引続き0.1%の微騰に止まつた。その主因は繊維を頂点とする消費財中心の軟化で一部には生産過剰傾向すら散見される。しかしながら一面鉄鋼をはじめとする基礎生産財関係は設備投資需要の旺盛を反映して容易に需給が緩和しない状況にあり、この硬軟両様のいずれの線が今後の景況を左右するかは海外の市況、金融の動きとも関連して注視

を必要としよう。

国際収支は輸出が依然高水準を続けているとはいえ、輸入が工業原材料を中心に増勢著しく、7月の外国為替収支が昨年5月以来久方ぶりに若干ながら逆調に転じたことも、この際注目しておかねばならない。

7月の金融情勢は引続き小締り状況に推移した。これは財政が外為会計の揚超等を映じて僅少の撒超に止まつたのに対して、市中銀行の貸出が大幅の増加を示したことによるもので、結局全国銀行の借入金残高は再び1,000億円台（内日銀借入583億円）を突破し、全国銀行の貸出は前年同期の3倍に及ぶ760億円の著増をみせた。これは基本的には生産や取引規模の拡大に基く面が大きいものと考えられ、特に昨年秋口以降の設備投資需要の増大がここでかなり集中的に金融面に反映されてきている事情も逸し難い。このような金融小締り情勢下にあつて銀行の貸あせり態度が依然として格別の変化をみせていないことは今後の貸出の動向ともからみ注目を要しよう。なお本行政策委員会は8月14日次の発表を行つた。

『本行取引先に対する最低歩合による貸出限度額につき調整を加えることが適当と認められるので所要の調整を行うこととした。これにより金融正常化に資するものと考え、この意味において取引先においては貸出態度につき慎重を期せられたい。』

3. 起債条件の自由化

公社債の発行条件はこれまで起債懇談会で決定されてきたが、7月11日の同懇談会で起債自由化の方針が決定され、今後当分の間起債条件はそれぞれの起債関係者間において適宜これを決定することができるようになった。金利の一般的低下傾向に伴い、個人消化の開始、本行適格担保社債事前審査の廃止、売買市場の再開等、つぎつぎに正常化の布石が打たれてきた起債市場は今回の措置によつて国債市場に先立ち一応自由市場の形を整えることとなつたわけである。